

今日のトピック 最近の指標から見る欧州経済(2015年7月) ギリシャ情勢を乗り越え、景気回復持続へ

ポイント1 景気は緩やかに回復 景況感は総じて安定

- ユーロ圏の7月の製造業PMI(購買担当者景況感指数)、5月の生産はともに前月から低下しました。生産活動は勢いを欠くものの昨年後半の水準を上回り、景況感も50超を維持していることから、緩やかな回復過程の中での一時的な調整と見られます。
- 7月のサービス業PMIは前月から低下したものの、高水準にあります。5月の小売売上高が前月から上昇するなど、消費は回復基調を維持しています。
- 6月後半以降ギリシャ情勢の悪化で市場は不安定化しましたが、景況感への影響は限定的と見られます。これまでのユーロ安が輸出や生産などを支え、景気は緩やかに回復しています。

ポイント2 物価と景気に金融緩和効果 金融緩和は状況次第で拡充へ

- 6月の消費者物価指数は前年同月比+0.2%と、今年1月の同▲0.6%を直近の底として上昇傾向にあります。原油安の影響が弱まり、ユーロ安から食料品価格などが上昇したことが要因です。
- 欧州中央銀行(ECB)による強力な金融緩和が景気や物価の回復をサポートしています。ECBは、2%近くとする物価目標の達成が見通せるまで、月600億ユーロの資産購入を継続する方針であり、必要に応じて追加緩和も見込まれます。

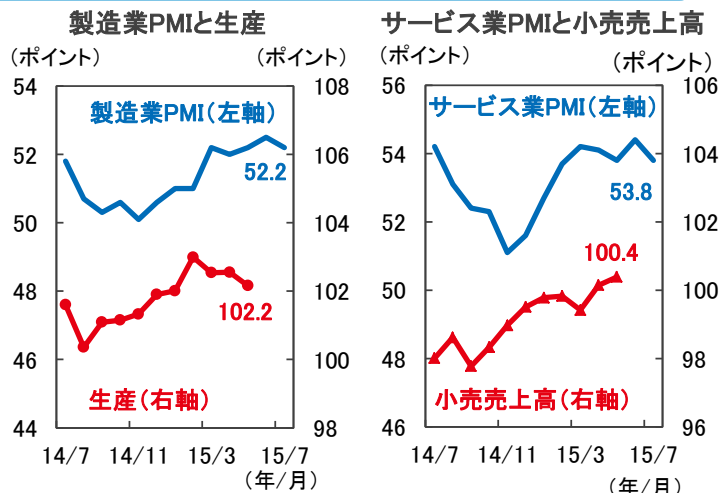
今後の展開 金融緩和や投資促進策により、景気の緩やかな回復が持続

- ユーロ圏は、輸出が主導して、生産、雇用、消費へと波及する好循環が見込まれます。ただし、設備の過剰解消には時間を要するため、設備投資の回復は脆弱となりそうです。景気回復をより着実なものにするため、欧州連合(EU)主導による、新産業育成などの投資促進策が期待されます。
- ギリシャが財政緊縮強化を受け入れたことで、EUなどの最大860億ユーロの金融支援協議が開始され、不安定な状況は一旦落ち着きました。景気は緩やかな回復持続が見込まれます。
- 景気回復のリスク要因として、ウクライナ問題などの地政学リスク、中国を含めた新興国経済の減速、再び下落傾向となった原油価格には、引き続き注意が必要と見られます。

ここも チェック!

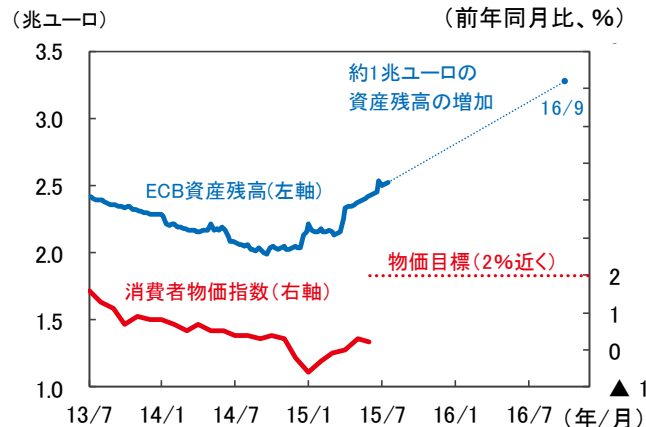
2015年07月17日 ECBは現行政策を維持、ギリシャ支援を拡充
2015年07月13日 ギリシャ協議は未決着、財政改革法制化に3日間の猶予

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。



(注) データは2014年7月～2015年7月(生産と小売売上高は2015年5月まで)。生産は鉱工業生産指数、小売売上高は小売売上高指数。数字は直近の値。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

消費者物価指数とECB資産残高



(注) ECB資産残高は2013年7月5日～2015年7月17日(週次)。消費者物価指数は2013年7月～2015年6月(月次)。2016年9月のECB資産残高は2015年3月以来月600億ユーロの購入が19カ月継続する前提で試算。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成